



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。  
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

## 会長メッセージ

早稲田大学の設立の歴史は、中国の日本への留学史とほぼ重なったものと言えるでしょう。中国近代史と多大な関係がある大勢の中国人留学生の先輩たちは、どのように今日の中国校友会設立のことを思われるのでしょうか。

畏れを抱きながら、2017年3月に「早稲田大学中国校友会」が発足し、5年間を歩んできました。そのうち、この3年間は新型コロナウイルス感染症の拡大で、会合が減った代わりに、武漢への支援、早稲田大学へのオンライン授業学生支援などに、力を尽くしました。

ほかにも総長や大学教員、派遣留学生との交流や、李大釗など著名な先輩校友の記念館、改革

開放後の日本からの援助施設などの見学交流も積極的に行ってきました。中国校友会の各支部は、その地にある稲門会と共同イベントを頻繁に行っています。ゴルフ会や忘年会など、日本人校友と校歌を一緒に歌う場面は少なくないでしょう。

現在、中国校友会は24支部(地域別)あり、4,000人以上の校友会員を擁しています。インターネットのテクノロジーのおかげで日常的に交流が盛んです。われわれは中国近代史上、そして自分の人生において早稲田大学との出会いに誇りをもちます。

孫 曉燕(1979年推薦校友)

## 会員からのメッセージ

早稲田大学での4年間を振り返って、自由闊達な校風やユーモアのセンスを持つ教員に親近感を覚え、生真面目で一方的な講義を展開する中国の教育スタイルとの大きな違いに戸惑いながらも、ロシア語やロシア文学を中心にがむしゃらに勉学に励みました。早稲田で感じた人間同士のつながりと温かみは人生の宝物になりました。

唐 亜明(1988年文学)

「学問の独立」精神、豊富な研究資料、政治経済学術院の先生たちの自由奔放な教え方、先輩のアドバイスやさまざまな地域の留学生との交流は、私の視野を大きく広げ、斬新な世界観を与えてくれました。

柳 明(1995年経研)

仕事柄、日々世界各国の出版社、レコード会社、映画会社と接します。日本企業は意思決定が慎重であり、あらかじめ予想される問題を含め、入念に確認するため、比較的ゆっくりとしたペースで進みます。その一方、アメリカ、韓国の企業は、意思決定は早いですが、推進時に想定されていない問題が起きると、その都度調整が入ります。国によって、価値観や仕事の進め方が違うのは当たり前です。早大在学中、海外取材などのインターンシップや、サークルでバンド活動を経験し、違う経歴・背景を持つ方々と出会い、異文化をよく理解できたことは、後日、仕事に大変役立ちました。

高 揚帆(2012年政研)

## 中国校友会について

その状況を踏まえて、2017年3月19日に中国留学生の同窓会組織として、「早稲田大学中国校友会」が北京で設立されました。設立記念式典には、鎌田薫総長、福田秋秀校友会代表幹事、中国全人代外事委員会の曹衛洲副主任委員や、北京大学元学長の陳佳洱氏と許智宏氏などが出席しました(当時の役職)。

各地域の校友会は現地の会員人数・特徴に合わせて、懇親会、フォーラム、他大学との交流会、企業見学などの多彩な活動を企画しています。22年8月、深圳支部が正式に承認され、中国大陸、海外を合わせて24支部に達しました。

梁 里虹(2007年公共研)



2017年3月19日に北京で行われた「早稲田大学中国校友会」設立式



早稲田大学中国校友会WeChat公式アカウントで情報発信をしています

## 中国の魅力

中国は国土が広く人口が多いため、おのずと方言、料理、気質などに違いがあり、多様性が生まれます。

方言は人口の9割以上を占める漢民族でも、北方(北京など)、呉(上海など)、粵(広東など)、閩東(福建省福州など)、閩南(福建省アモイなど)、湘(湖南省など)、客家(広東省東部など)、贛(江西省など)と、大きく八つに分けられます。総会ときは、共通語の「普通話」でコミュニケーションを取りますが、地域ごとの懇親会では、きっと方言の面白さを実感できるでしょう。

料理は地域によって、「南淡北鹹、東酸西辣」(南は薄味、北は塩辛い、東は酸っぱい、西は辛い、という意味)とよくいわれます。北京ダック、上海小籠包、広東飲茶、西安饅頭、西安饅頭……全国には数えきれないほどのご当地グルメがあります。「遊びに来て、〇〇はおいしいから、おごります」は、遠隔地の校友同士の定番文句となります。

気質については個人差があるものの、地域差は存在しています。北方はおおらかで豪快、南

方は細やかで穏やか、というのが一般的な認識ではないでしょうか。校友は日本への留学経験と関係があるかどうかは分かりませんが、地域を問わず、きちょうめんな方は多そうです。

このような多様性は「中国の魅力」の一つだといえるでしょう。旅行、出張や駐在などの機会の際に、ぜひ中国の魅力、中国の校友の温かさを感じてください!

梁 里虹(2007年公共研)

(上) 2021年4月上海支部

(下) 2021年7月広州支部



2022年8月に仲間入りした深圳支部